

「アーバニア志賀公園」団地における防災施設整備

受賞機関 都市基盤整備公団中部支社 居住環境整備・再開発部

はじめに

都市公団では、美しく安全で快適な市街地の形成等のための「都市の基盤整備」を重点的に実施することとしている。

本事業「アーバニア志賀公園」団地は、名古屋市の中心「栄」より北方約3.3km、地下鉄名城線「黒川駅」へ徒歩12分の至便な土地に位置し、平成7年に発生した阪神・淡路大震災を教訓として「アーバニア志賀公園」団地において住宅建設と併せて数々の防災施設の整備を行った。

防災施設整備の目的・概要

(1) 非常時生活雑用水の確保

・ 地下雨水貯留施設の設置

貯留施設は、砕石間に生ずる空隙を利用して貯留するものであり、屋根排水のみを貯留するような排水ルートを計画するとともに、初期降雨に含まれる埃や落ち葉等のゴミが混入しないよう沈殿柵等の対策を施した。また、散水等に使用できるように手汲みポンプを整備してある。尚、貯留量としては、団地計画人口に対して一人当たり100ℓを確保してある。

(2) 防災ネットワークの整備

・ 避難動線に配慮した団地内通路の整備

当地区の南側には都市公園である「志賀公園」、北側には広域避難所である「志賀中学校」が隣接しており、避難所への動線に配慮した団地内通路を整備してある。

(3) 雨水流出の抑制

・ 敷地内施設への浸透構造の導入



集会室へ電力を供給する太陽光発電システム



災害時にはトイレとして利用可能なマンホール蓋

当地区においては、下水道への雨水流出の抑制、ヒートアイランド現象の緩和、地下水の涵養等を目的として、浸透舗装や浸透柵、浸透トレンチ等を積極的に導入し、雨水の地下への浸透を促進している。

(4) その他の災害時対応施設の整備

・ 災害時にトイレとして利用可能な人孔蓋の設置

団地内には、災害時に仮設トイレとして利用可能な災害時対応型汚水マンホール蓋（親子蓋）を数カ所設置している。

・ 太陽光発電システムを導入

また、住宅棟屋上に定格出力5.0kWの多結晶シリコン太陽光パネルを設置し、発生した直流の電気をインバータにより交流に変換して集会室へ電源を供給しており、災害等による停電時には、非常用の電源としての利用を可能としている。

おわりに

本事業では、団地内住民の非常時の生活環境確保ならびに地区防災性向上に努めた。都市公団では、今後とも安全・安心なまちづくりのため、地域との連携の下、周辺地域も含む市街地の安全性向上に資する各種の都市基盤の整備に努めてまいりたい。

受賞賛助会員 名工建設㈱